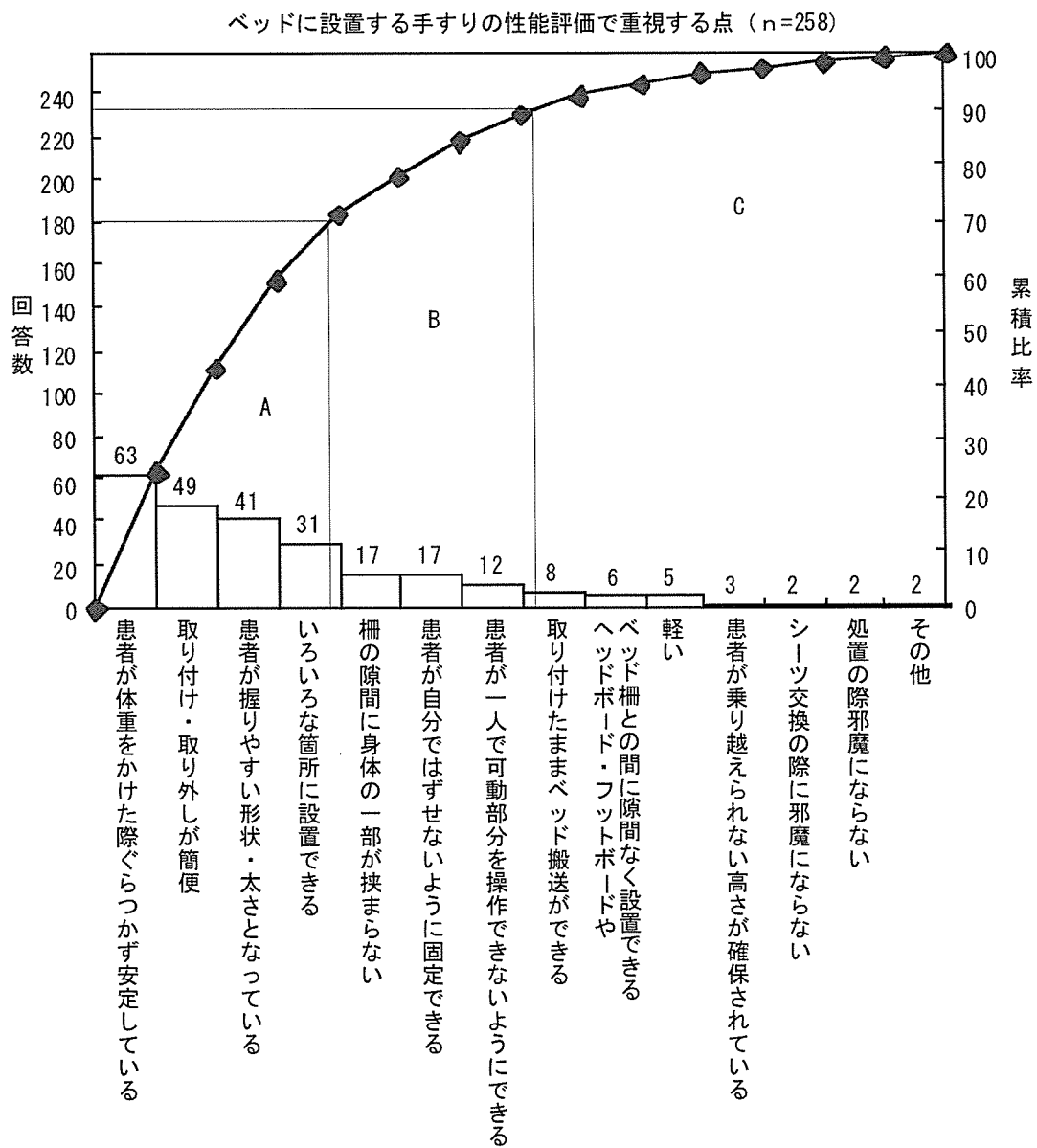


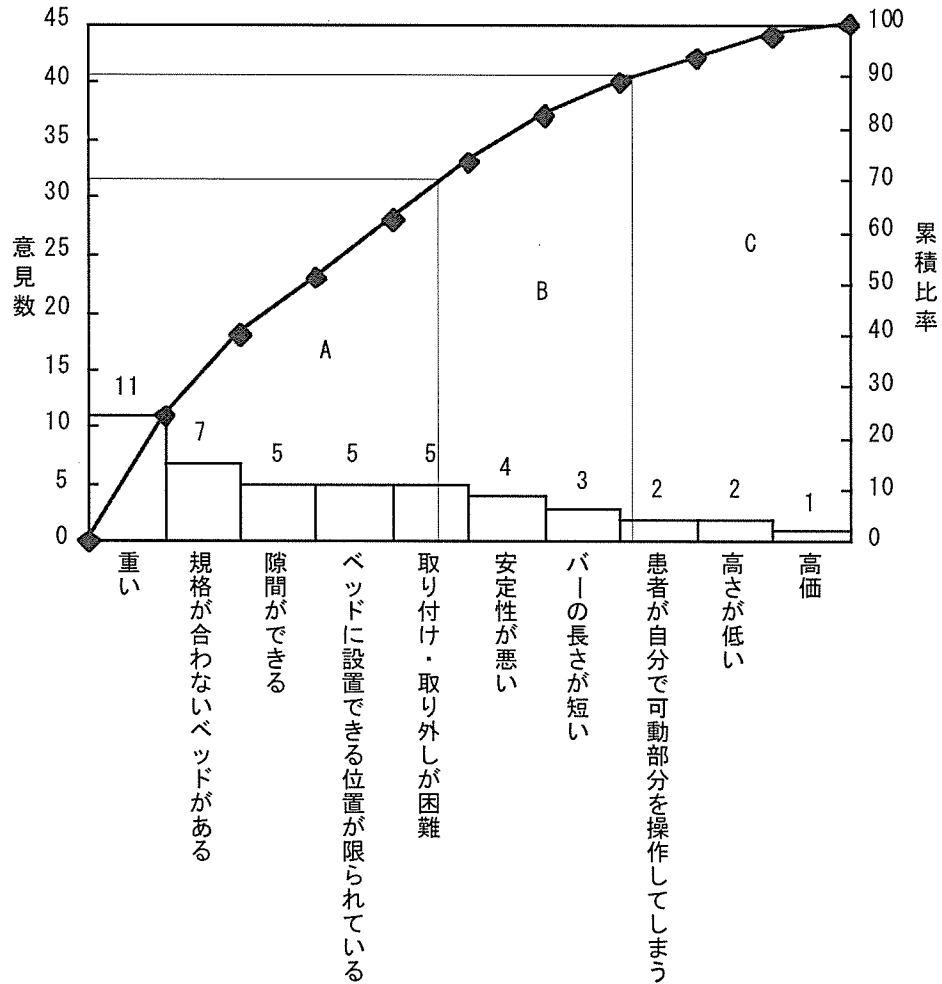
資料 6-1 介助バーなどベッドに設置する手すりについてのアンケート集計結果

介助バーなどベッドに設置する手すりの使用状況

使用状況	回答数	回答割合
現在使っている	62	21.1%
過去に使ったことがある	34	11.6%
使ったことがない	182	61.9%
不明	16	5.4%
計	294	100.0%



ベッドに設置する手すりに対する不満・改善要求意見 (n=45)



資料 6-2 介助バーなどベッドに設置する手すりの評価軸と求められる性能

評価軸	求められる性能
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> 隙間なく設置できる <input type="checkbox"/> 患者が握りやすい形状・太さとなっている <input type="checkbox"/> ぐらつかないよう安定した設置ができる
設置・収納のしやすさ	<input type="checkbox"/> 着脱が容易にできる <input type="checkbox"/> 強度や機能を損ねることなく、軽量化がはかられている <input type="checkbox"/> あらゆるベッドに設置できる
患者の利便性への配慮	<input type="checkbox"/> いろいろな位置に設置できる

資料 6-3 介助バーなどベッドに設置する手すりの性能を評価するにあたって重視する点・ 選択理由・一覧表

1. 取り付け/取り外しが簡便

- ・ 看護師が扱いやすい。
- ・ 気軽に使用し役立てるため。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 必要時に迅速に取り付けられること。
- ・ 患者の状況に応じて柵を選択したい。
- ・ 必要な時、すぐ取りつけできる方が良い。
- ・ ベッドに合わず入りにくいことがある。
- ・ 必要な患者にすぐに設置できる。
- ・ 安全かつ使用しやすい方が良い。
- ・ 安全かつ使用しやすい方が良い。
- ・ 現在のものは面倒であり、壊れやすい。
- ・ 固定すると外しにくく、労力がある。
- ・ Pt の状態に合わせられる。
- ・ 取り付け外しが簡単。
- ・ 設置がしやすい。
- ・ 取りつけが容易である。
- ・ さしこみ式となっており、取り外しがしやすい。
- ・ 見ただけで操作方法がわかる。
- ・ 使用したい時にすぐにとりつけ、外しができる。
- ・ 患者の状態により変換するため。
- ・ 数に限りがあり、使いまわしをしている。
- ・ かんたん。
- ・ 誰でもすぐに簡単に取り付けられるものが使いやすいから。
- ・ 無駄な時間を使わずに、安全がいい。
- ・ 必要な時に簡単に使用できる。
- ・ 今使っているものがとりつけずらいため。
- ・ 介助バーの数が限られており、必要な時にすぐ取り付けることが良い。
- ・ 取り外しが簡便。
- ・ 取付は楽が良い。
- ・ 使い方が簡単で、安定感もある。
- ・ 使いやすい。
- ・ 安静度変更時、すぐ付け外しがしたいため。
- ・ ADL の具合により、選択できる、設置できる。
- ・ 患者様の ADL 状況に合わせ、すぐ設置できること。設置場所も自由にできる。
- ・ 取付が大変だと使いたくなくなる。
- ・ 車椅子利用する Pt で麻痺のある自立した人に便利。
- ・ 取付が複雑では、使用する気にならない。
- ・ 現在の支援ポールは取付の際、他部門に依頼しなくてはならないため。
- ・ 便利さは大切。
- ・ 様々な患者に対応できるよう、つけ外しが楽な方がいい。
- ・ 患者が支持しても安全なものが望ましい。
- ・ ドライバーでしめたりして、固定するのがめんどろ。
- ・ とりつけがしやすい。
- ・ 忙しい業務の中であまり設置が大変でも道具を使用しなくなる。
- ・ 業務の時間短縮。
- ・ 取り付け外しが容易で、かつ患者さんが操作する時は外れにくいように。
- ・ 設置しやすい。
- ・ ロックなどがあるとよいけど、とりつけなど簡便なことが大切。
- ・ 利便性。

2. 軽い

- ・ 現状のもの重い。
- ・ 今あるのが重たくて設置が大変なため。
- ・ 取り付け、取り外しがしやすい。
- ・ 取り扱いの問題。
- ・ 重いとスタッフの負担になる。

3. 取り付けのままベッド搬送ができる

- ・ ベッド移動が多いため。
- ・ 取り付けのまま、搬送も洗浄にも出せる。
- ・ ベッド移送が多い。
- ・ 安全かつ使用しやすい方が良い。
- ・ ベッド移動は結構あるから、大切なことだと思う。

- ・ 緊急性によって見る。
 - ・ 支援ポールは床と接地しており、ベッド移動時大変なため。
4. 患者が自分ではずせないように固定できる
- ・ 固定することで事故防止につながる。
 - ・ 患者の安全性。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 自分で外してしまうことがある。
 - ・ 立位のための院体がよくなるため。
 - ・ ネジで固定して安定感がある。
 - ・ 使用目的から安全性が優先させられる。
 - ・ 認知症のある場合必要。
 - ・ 使用中に勝手に取り外せなかったり、ぐらつかず安定している。
 - ・ 意識障害患者もいるので簡単に外せてはかえって危険になる。
 - ・ 転倒・転落の予防。
 - ・ 転倒・転落予防のため。
 - ・ 患者の安全を守るため。
 - ・ 危険防止。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 安全性。
 - ・ 自分で操作すると危険な場合もある。固定もでき、動かす様にもできた方がよい。
5. 患者が一人で可動部分を操作できないようにできる
- ・ 固定がしっかりできる—安全。
 - ・ リハビリ期の状況に合わせて調整できる。麻痺側部位を考慮した場所に取り付けることができる。
 - ・ 操作したことを知らないで利用した場合、事故の恐れがある。
 - ・ 理解をしっかりとっていないと転倒する危険がある。
 - ・ 使用する患者は、体動、歩行などが不安定な患者であり、看護者の介助が必要となるため。
 - ・ 時々とりはずして、そこからの転落があるため。
 - ・ 認知症の患者も多く、稼動操作できると危険である。
 - ・ 自分で操作すると危険な場合もある。固定もでき、動かす様にもできた方がよい。
 - ・ 外れるとPtにあたる可能性があり危険。
 - ・ ロックできる。
 - ・ 勝手にとりはずしができるようには事故のもとだ。
6. ヘッド・フットボードやベッド柵との間に隙間なく設置できる
- ・ 安全面から。
 - ・ ベッド柵の間に腕や足が挟まってしまうという経験しているから。
 - ・ 安全性。
 - ・ 足元に間があいてしまうので。
 - ・ 隙間が多すぎると、リハビリ時に不安定にならない。
 - ・ すきまより落ちることがあるので。
7. いろいろな箇所に設置できる
- ・ 右であったり、左であったり、自由にPtに合わせた設置が必要と思うため。
 - ・ 安全かつ使用しやすい方がよい。
 - ・ 患者の個性に合わせて設置。
 - ・ 患者によって、麻痺レベルも違うので使い勝手のよい位置に設置できる方がよい。
 - ・ 障害の状況により、使用する場所は変化するため。
 - ・ 患者の用途に合わせて設置できる。
 - ・ リハビリ期の状況に合わせて調整できる。麻痺側部位を考慮した場所に取り付けることができる。
 - ・ Ptにより介助の方法が違うため。
 - ・ 患者に合わせて日常生活援助を行いたい。
 - ・ その人に応じられるのでよい。
 - ・ Ptの状態に合わせて設置できる。
 - ・ Ptに合わせて設置できる。
 - ・ 患者の状況に合わせて設置できるように。
 - ・ 大きさを変えることによって、いろいろな箇所につけられる。
 - ・ Ptにあわせた位置はいろいろだから。
 - ・ 二つに分かれているので好き位置（右左も）につけられる。
 - ・ 患者によって移動する位置が違うので、場所はいろいろがよい。
 - ・ 使い方が簡単で、安定感もある。
 - ・ 利き手、身長、個人差に合わせてたい。
 - ・ ADLの具合により、選択できる、設置できる。
 - ・ 病状が様々のため。
 - ・ 患者の身体状況に合わせて設置したい。
 - ・ 使いやすさ。
 - ・ ベッドに設置する手摺りは患者の自立のためのものであり、患者が使用しやすい事が選択する条件である。

- ・ 設置する目的上当然。
 - ・ 患者様の状態に応じて設置でき、移動する時、患者様が楽である。
 - ・ 患者にとって安定していることが重要。また色々な箇所に設置できると Bedside が効果的に使える。
 - ・ 対象によりとりつけ位置がかえられる。
 - ・ 半身麻痺など、左右色々だから。
 - ・ 行動目的に合わせて又、Pt 各々の状態に合わせて使用できて便利。
8. 柵の隙間に身体の一部が挟まらない
- ・ 患者が使いやすく安全に使用できる。
 - ・ 柵のすき間は Pt の一部ぬけてしまうと危険。
 - ・ 柵の意義がなくなる。新しいリスクとなる。
 - ・ 患者の安全のため。
 - ・ 安全性。
 - ・ 患者の体を傷つける原因となる。
 - ・ 安全面。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 危険のないように。
 - ・ 危険・安全性。
 - ・ 事故防止。
 - ・ 事故あり。
 - ・ 患者の安全が守られること。
 - ・ Pt の安全。
 - ・ 安全管理。
 - ・ 隙間に手足、首などを挟み込んでの事故を防ぐため。
 - ・ 安全性は大切。
9. 患者が乗り越えられない高さが確保されている
- ・ マットレスの高さが高い場合、危険を感じるがあったから。
 - ・ 危険防止のため。
 - ・ 柵をはずそうとする人が多いので。
10. 患者が握りやすい形状、太さとなっている
- ・ 患者様にとって使いやすく、自立を促せる。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 事故があってはならない。転倒しないため。
 - ・ 患者のポータブルトイレなどへの移動がしやすい。転倒予防に効果がある。
 - ・ 患者の安全な動作に有効な形、大きさ。
 - ・ 太いので持ちやすい。
 - ・ リハビリ科の患者が使用することが多いので、しっかりしていることが大切。
 - ・ 臥位→端座位→起立とスムーズにできる形状、太さである。
 - ・ 自立行動につながりやすい。
 - ・ ベッド起きあがり時安定感がえられる。
 - ・ 手摺り使用による転倒を防ぐため。
 - ・ 介助バーであれば、ある程度、ほとんどの Pt に対応可能と思えるもの。
 - ・ リハビリ期の患者にとっては大切な支援道具だから患者に合うものは必要。
 - ・ 力の入れやすい太さ、形状は大事。
 - ・ 患者にとって使いやす方がいい。
 - ・ 立位安定、介助もしやすく安全。
 - ・ 握りやすい。
 - ・ 握った時に力が入れやすい太さがあるのも必要だから。
 - ・ ある程度の太さがある。
 - ・ 患者が使いやすく安全に使用できる。
 - ・ しっかり握れるものでないと手が放れやすいため。
 - ・ Pt の安全。
 - ・ ベッドに設置する手摺りは患者の自立のためのものであり、患者が使用しやすい事が選択する条件である。
 - ・ 安全性。
 - ・ 使用目的が達成されるように。患者の安全を確保するために必要だから。
 - ・ 麻痺されている方が使いやすいから。
 - ・ 持ちやすく、握りやすいので、移動の時使いやすい。
 - ・ 患者の使用時の安全性が確保できるものであることが条件。
 - ・ 使用しやすいものが良い。
 - ・ 介助バーの使用がしやすい。
 - ・ 使用しやすい。効果的。
 - ・ リハビリ期の状況に合わせて調整できる。麻痺側部位を考慮した場所に取り付けることができる。
 - ・ Pt が使用しやすい様にするため。
 - ・ 患者の使いやすさ。
 - ・ 太さが適当である。

- ・ 握りやすい形状である方が安定して立位保持できる。
 - ・ 患者にとって安定していることが重要。また色々な箇所に設置できると Bedside が効果的に使える。
 - ・ 患者の ADL 向上のために使用するの。
 - ・ 片方の手でも握りやすく、安全につながる。
 - ・ 患者の自立を促すため、使いやすいものであること。
11. 患者が体重をかけた際、ぐらつかず安定している
- ・ 不安定な患者に使用するため、安心できるものでなくてはならない。
 - ・ 危険防止のため、安定感の良い方が良い。
 - ・ 立位安定、介助もしやすく安全。
 - ・ 立位のための院体がよくなるため。
 - ・ ネジにより固定できる。安定性があるかどうか。
 - ・ 柵の意義がなくなる。新しいリスクとなる。
 - ・ 不安定であるため。
 - ・ 患者に合わせた日常生活援助を安全に行いたい。
 - ・ 患者の安全のため。
 - ・ "安全性。
 - ・ 安定していてぐらつかないとしっかり立位等になれるので良い。
 - ・ 安全。
 - ・ 移動時の安全がないと患者が不安。
 - ・ トランスの際、荷重をかけるので、ぐらつくときけんである。
 - ・ 患者が使いやすく安全に使用できる。
 - ・ 多少体動かしても大丈夫なものでないとかまっても危険。
 - ・ ベッドに設置する手摺りは患者の自立のためのものであり、患者が使用しやすい事が選択する条件である。
 - ・ 安全のため。
 - ・ グラツクと危険。
 - ・ 患者が支持しても安全なものが望ましい。
 - ・ リハビリ時にぐらつかないことが必要。
 - ・ 危険・安全性。
 - ・ 安定は大切。
 - ・ 起立時、自分立つ位置はさくがなく、手の位置にさくがあり、起立の支えになれる。
 - ・ 患者の安全を確保するために必要だから。
 - ・ 事故を防ぐために必要なこと。
 - ・ 体重をかけることがあるから。
 - ・ 固定しやすい。
 - ・ 介助バーなので立位時動かないものがある。
 - ・ ぐらつくとも患者はこわい。
 - ・ 使い方が簡単で、安定感もある。
 - ・ 事故防止。
 - ・ 事故あり。
 - ・ 安全第一だから。
 - ・ 患者の使用時の安全性が確保できるものであることが条件。
 - ・ 患者の安全のため。
 - ・ 患者様にとって使いやすく、自立を促せる。
 - ・ 患者の安全が守られること。
 - ・ 患者のポータブルトイレなどへの移動がしやすい。転倒予防に効果がある。
 - ・ 安定良。
 - ・ 患者の安全を守るため。
 - ・ 安全管理。
 - ・ リハビリ科の患者が使用することが多いので、持ちやすいことが大切。
 - ・ 起立時に患者が体重をかけた時、ふらつきを防ぎ、事故防止。
 - ・ 手すりを支えに立ちあがる為、安全と安定性が必要である。
 - ・ 患者にとって安定していることが重要。また色々な箇所に設置できると Bedside が効果的に使える。
 - ・ 安全面から。
 - ・ 患者様が安全に使えるように。体重を（力を）かけても安全なように。
 - ・ 立位時体重がかかるが、その時ぐらつくとも患者の不安につながる為安定が良い。
 - ・ 起きあがり、離床時に安定したささえがえられる。
 - ・ 患者は移動時体重をかけるため、危険をさけるため、安定性は必要。
 - ・ 転倒防止のため。
 - ・ 不安定であると、転倒、転落の危険性があると思う。
 - ・ 柵につかまって移動したりするため、安定感が必要。
 - ・ Pt の安全。
 - ・ 立位を支援できる様な安定感が必要。
 - ・ 使用目的から安全性が優先させられる。
 - ・ 危険回避の為。

- ・ 危険防止のため。
 - ・ つかまったり、体の支えに使うので、安定していなければ転倒する。
 - ・ 患者が体重をかけた際、ぐらつかず安定。
12. 処置の際、邪魔にならない
- ・ 倒せないのじゃまにならないようにしたい。
 - ・ 使いやすさ。
13. シーツ交換の際に邪魔にならない
- ・ 看護師がやりやすい。
 - ・ シーツ交換頻度が高いので。
14. 清掃が簡便
15. その他
- ・ 安楽に移動できる。
 - ・ 中途でもロックがかかる。

資料 6-4 介助バーなどベッドに設置する手すりへの不満・改善要求意見・一覧表

重い

- ・ 重量があるため取り付け、取り外しの際手間がかかる。
- ・ 安定感はあるが、やや重い。
- ・ 重い。
- ・ 柵が重たい。
- ・ あまり重量のあるものはこまる。
- ・ 重くて使用しづらい。

規格が合わないベッドがある

- ・ ベッド（会社）によって設置できないものがある。この介助バー等、企画を一緒にして欲しい。
- ・ 全てのベッドに合わない。
- ・ 従来のベッド柵とサイズが違うため、併用が難しい時がある。
- ・ 他の Bed 柵とのおりあいが悪い。
- ・ メーカーによっては専用となっているので不便。
- ・ 介助バーがつけられないものがあるのがこまる。
- ・ 付けられないベッドがある。

隙間ができる

- ・ ベッド柵とベッド柵（介助バー）の間に隙間が出来る。
- ・ アーチ状になっているので隙間から患者が降りようとされたことがある。
- ・ 差し込みの位置一隙間が出来て危険。
- ・ 柵のすき間から何か物がおちてしまう。
- ・ 介助バーの足元がすき間ができるため、そこから転落する時がある。

ベッドに設置できる位置が限られている

- ・ 設置場所限られる。
- ・ 位置が適切な所に設置できない。
- ・ 介助バーの設置ができる場所が限られており、普通のベッド柵と使用した場合、患者に応じた設定が難しい。
- ・ さし込み口がかぎられている為、自由がきかない（2通りくらいのパターンしかできない）。
- ・ 患者の移動する位置に取付することとなり、邪魔となる時がある。

取り付け/取り外しが困難

- ・ バーの取り外しができにくかった。
- ・ とりつけがしやすいように
- ・ とりはずしが困難。
- ・ シーツ交換などではずすのが大変。
- ・ ベッド柵が入りにくい。

安定性が悪い

- ・ 現在使用しているものは固定が今ひとつで安定しない。
- ・ 介助バーを設置する際のネジが緩くなりやすい。
- ・ 介助バーを使用しているが、握り力を入れた際ぐらつく。
- ・ ぶらつきがあり心配。

バーの長さが短い

- ・ バーの長さが短い場合もある。
- ・ 色々なサイズがあると良いのではないか。
- ・ 柵の長さが短いので、ポータブルまでも遠いと感じることがある。

患者が自分で可動部分を操作してしまう

- ・ 介助バーの固定を利用者が簡単に操作できないようにする。
- ・ 患者様がバーを動かしてそこからベッド下に降りてしまう。

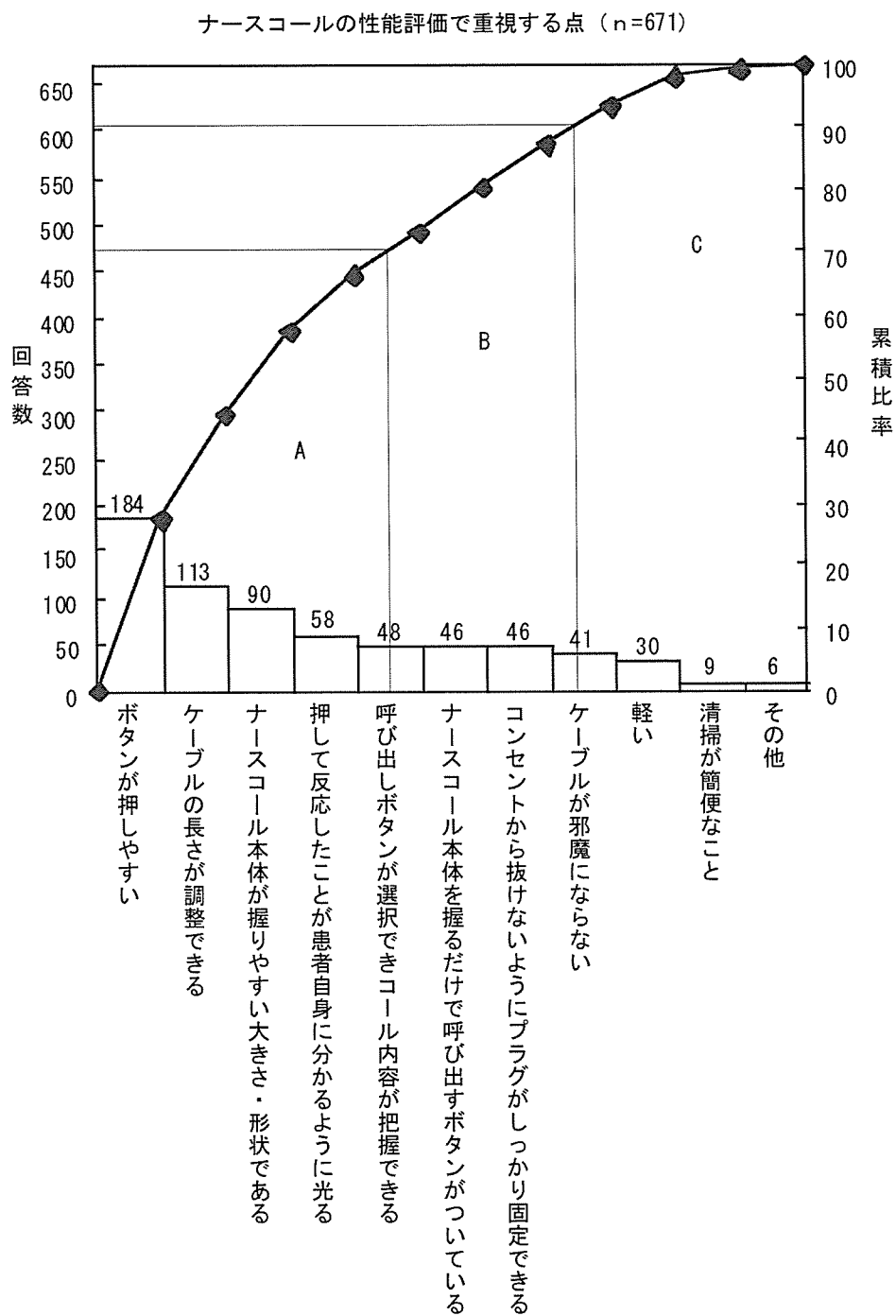
□高さが低い

- ・ マットレス 10 cmあり、介助バーを付けると、柵としては低く、患者さんから落ちそうで不安であるとの声が、これまで3～4人からあり、差し込み式ベッド柵に変更した。
- ・ 普通のベッド柵の高さより低く、高さ調整できない。

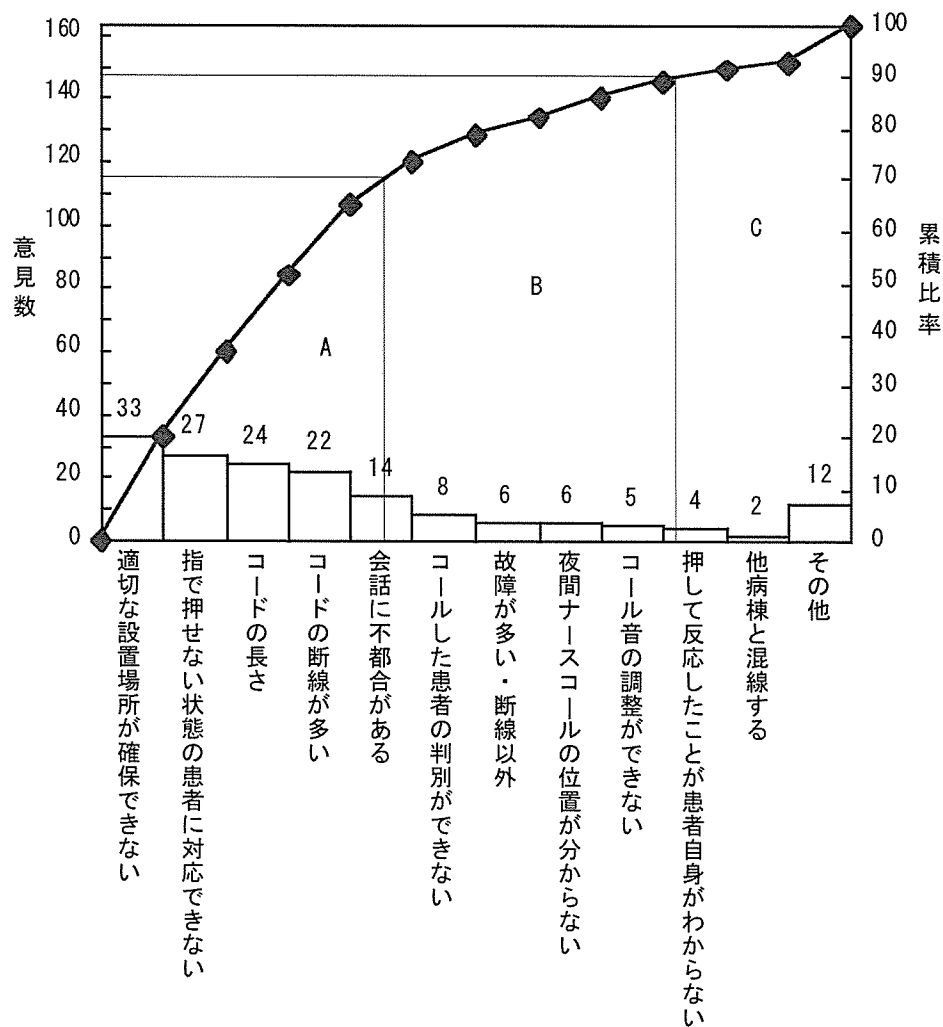
□高価

- ・ 安価にして欲しい。

資料 7-1 ナースコールについてのアンケート集計結果



ナースコールに対する不満・改善要求意見 (n=163)



資料 7-2 ナースコールの評価軸と求められる性能

評価軸	求められる性能
患者の利便性への配慮	<input type="checkbox"/> 押す以外にいろいろな方式で反応する <input type="checkbox"/> ボタンが押しやすい <input type="checkbox"/> 同室患者に聞かれることなく、コール内容を伝えることができる <input type="checkbox"/> 持ちやすい大きさ・形状となっている <input type="checkbox"/> 押して反応したことが患者自身に分かる <input type="checkbox"/> 回線を通して会話がしやすい
設置のしやすさ	<input type="checkbox"/> 子機がいろいろな位置に設置できる <input type="checkbox"/> ケーブルの長さが調節できる
故障や破損を防ぐつくり	<input type="checkbox"/> コードが断線しない構造になっている <input type="checkbox"/> ケーブルの長さが調節できる
誤報や誤操作を避けるための機能	<input type="checkbox"/> 押して反応したことが患者自身に分かる

資料 7-3 ナースコールを評価するにあたって重視する点・選択理由・一覧表

1. ボタンが押しやすい

- ・ 使いやすさ。
- ・ 患者が取り扱いやすいため。
- ・ 患者の枕元に置き、軽く押せるので使いやすい。
- ・ 使用する患者が便利に使用できる。
- ・ 高齢者が多いため。
- ・ 高齢者などにも簡単に使用できる。
- ・ ナースコールを押す力がない患者がいる。
- ・ 使いやすさが大切です。
- ・ 患者が使用しやすい。
- ・ 麻痺があったり、筋力の低下、硬縮のある高齢者が使用するため。
- ・ 誰にも簡単に押せることは必要。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 患者様が使いやすいことが一番。
- ・ 高齢者が多くなってきているため、力が弱くても使用できる必要がある。
- ・ シンプルな機能。
- ・ 多少麻痺があってもコール可能なこと。
- ・ 上肢の硬縮・手指の変形、患者様にも対応可能に。
- ・ 握りやすい大きさと軽いので使いやすい。
- ・ 簡単に押すことができる。
- ・ わずかな動きしかできなくなった患者様にはとても良い。
- ・ 患者が操作しやすい。
- ・ 患者様が操作しやすい。
- ・ すべての患者が押しやすいものが良いと思う。特に高齢者が押しやすいもの。
- ・ 高齢で機能障害がある患者でも使用しやすい。
- ・ 患者が使いやすいよう。
- ・ 障害を持った方が押しにくい。
- ・ 力が入りにくい人でも簡単に押しやすいこと。
- ・ 身体機能が低下している高齢者も押しやすい。
- ・ 押しやすいこと。
- ・ 高齢の方にも対応しやすい。
- ・ 高齢者が多く、押しやすいかどうか重要。
- ・ 高齢の方でも簡単に押せるように。
- ・ 安全、安心のため（患者様の）。
- ・ Pt が使用し安い様に。
- ・ ナースコールは緊急時に Pt が使用するものであるため、押しやすい方が良い。
- ・ 使いやすい。
- ・ 簡単に押せる。
- ・ あまり力を要しない。
- ・ 高齢の方には、とにかく押しやすいことが一番。
- ・ 現在の真ん中の円を押すことが困難な老人の患者が多い。
- ・ 使いやすい。
- ・ 使いやすい。
- ・ 手が動かない、指で押せないといった障害の方にも対応できるパーツがほしい。
- ・ 誰にでもすぐ押せるから。
- ・ 安心してすぐ呼べる事。
- ・ 使い易い（高齢者でも）。
- ・ 患者にとって押しやすいことが大切。
- ・ 患者が使いやすい。
- ・ 緊急時に確実にコールできることが大切。
- ・ ナースコールに大きめのボタンで押しやすくなっていることより。
- ・ 体動や手の不自由な方も多い。
- ・ 患者が操作しやすい。
- ・ 患者が使用しやすいものが良い。
- ・ 患者様自身の扱いが楽で、いつでも押せる様に。
- ・ 力が弱かったり、手指の変形などがあっても押しやすいナースコールであってほしい。
- ・ 簡単に指だけで押せること。
- ・ 手が不自由な患者様でも押しやすい、握りやすい大きさが良い。
- ・ 高齢者が多く押すのでやっとの人も多いので、押しやすいことは大事。
- ・ 自分で押せる人には問題ない。
- ・ Pt が楽だから。
- ・ RA で変形のある患者が押しやすいとよいと思うケースがあった。
- ・ どこを押すか分からない患者がいる。

- ・ 患者にとって押しやすいことが一番良い。
- ・ Ptにとって使いやすい。
- ・ 患者がすぐに押せるため。
- ・ 誰にでも押せるようなものでなくてはならない。
- ・ どのような状態の患者でもコールが容易であること。
- ・ 手指の変形や動かしにくさのある患者が使いやすい。
- ・ 老人・高齢者・理解力の低い患者多いため。
- ・ 使い方が理解しやすい（色々な方がいるので）。
- ・ ナースコールは患者が必要な時に押すものであり、これは選択条件である。
- ・ 患者が使用する以上、押しやすさは優先される。
- ・ 患者の使いやすさ。
- ・ RAのPtがいるため、指の変形で握りづらいため。
- ・ 長さの調節もできるので、またPtが握るのに容易であること。
- ・ 高齢者が多く、わかりやすい方がよい。
- ・ 急な時に対応しやすい。
- ・ 個別性（押しボタン使用困難など）。
- ・ 力が足りない。
- ・ pt様が呼び出される時に押しやすく握りやすい形状であることが最も大切。
- ・ 押しにくくはコールにならない。
- ・ 患者が使うものなら当然だと思うから。
- ・ 利便上。
- ・ 高齢者が多く、また小児もいるため分かりやすく押しやすいものが良い。
- ・ どんな患者さんにも使用しやすいように。
- ・ 老人でも、力のない人でもおせること。
- ・ 高齢の患者さんでも使い易い。
- ・ 色のコントラストがはっきりしていると患者さんがちゃんとボタンを認識できる。
- ・ 押すことができる箇所が2箇所ありおしやすい。
- ・ 誰にでも使えることが必要。
- ・ 誰もが簡単に扱えないと大変だから。
- ・ おしにくいと急変に対応できない。
- ・ 安全性。
- ・ 押しやすい事が前提条件である。
- ・ すぐに押せるように。
- ・ わかりやすこと。
- ・ Ptが操作しやすいものがよい。
- ・ ナースコールはすぐ押せることが重要。
- ・ 患者が使用しやすいように。
- ・ 老人が使える。
- ・ かんたんでよい。
- ・ 押しでも反応がないとこまる。
- ・ 押す力があまり足りないこと。
- ・ にぎりやすい。
- ・ 誰でも使いやすいものが良い。
- ・ 高齢者、握力の弱い人でも押ししやすいように。
- ・ 簡単に使用できる。
- ・ 身体的、精神的苦痛を伴っている事が多い。高齢者が多い。
- ・ だれでも使いやすいように。
- ・ ボタンの色がオレンジでわかりやすく、押しやすい。
- ・ 板状におしやすいため。
- ・ 強く押せなくてもナースコールできる。
- ・ 力をあまり必要としない。
- ・ 筋力低下した人もいる。
- ・ 安静度、体位に応じて長くできると良い。
- ・ 力を入れなくても押せる。
- ・ 麻痺のある患者も楽に押せる。又、車椅子乗車していても押しして届く様に。
- ・ 手指の受傷もあるので。
- ・ 手に届く位置で、容易な操作でナースコールができる様に。
- ・ 握力の弱い方にとって良い。
- ・ 意識のはっきりしない時は、押しにくい。
- ・ 年齢や疾患に関係なく、押しやすいものが良い。
- ・ 押しやすくないと意味がない。
- ・ PtのADL、理解力に合わせて、長さ調整しPtがキチンとコールを押せる様にするため。
- ・ 押しにくいものは、患者が困ると思う。
- ・ 患者自身が操作しやすくなければコールができない。
- ・ 患者が使いやすい。

- ・ どんな患者でも、使用できる様。
 - ・ 高齢のため簡便なものが良いから。
 - ・ 使用しやすいものが良い。
 - ・ 患者が扱いやすくなければ、操作できないから。
 - ・ まずは使用しやすいこと。
 - ・ 使用しやすい。
 - ・ 高齢の方が使いやすいもの。
 - ・ 手の不自由な患者でも容易に押せるように。
 - ・ 患者さんが使用しやすいのが一番だと思うため。
 - ・ 誰にでも簡単に理解でき、使用できることが大事だと考える。
 - ・ 患者様が使用しやすいこと。
 - ・ ボタンを握ると押せるので使いやすい。
 - ・ 麻痺や筋力が弱っている時でも押せる。
 - ・ 力のないPtもいる。
 - ・ 患者にとって押しやすいもの。
 - ・ 押しやすい。
 - ・ 両マヒのある人にも使用できるもの。
2. ナースコール本体を握るだけで呼び出すボタンがついている
- ・ 高齢者が多いため。
 - ・ 簡易で便利である。
 - ・ 指で押すという動作ができなかったり、理解できないケースがある。
 - ・ 患者の状況により使い分けができる。
 - ・ 患者が操作しやすい。
 - ・ 指先の細かい運動が出来ない患者のために。
 - ・ 手指の動きが緩慢な人も使用できる。
 - ・ ボタンを押せない患者がいるため。
 - ・ 小さいので邪魔にならない。
 - ・ 安心してすぐ呼べる事。
 - ・ ベッド調整で断線させることが多い。
 - ・ Ptが楽だから。
 - ・ どのような状態の患者でもコールが容易であること。
 - ・ ソフトタッチでOK。
 - ・ 頸椎損傷患者や、頸椎症で手にしびれや麻痺があり、にぎれるが押せない患者がいるため。
 - ・ ベッド柵などに固定しやすい。
 - ・ 患者が使用しやすいように。
 - ・ 患者が使いやすい。
 - ・ 麻痺などかの運動機能障害のある患者にも使用できる。
 - ・ 使用しやすい。
 - ・ 手の不自由な患者でも容易に押せるように。
 - ・ 患者の自立支援。
 - ・ いろいろなケースに対応できる。
 - ・ 自分でコールできない方には音だけで反応するコール方法の必要。
 - ・ 麻痺があり押せない患者さんに使用できる。
 - ・ 患者が押しやすい。
 - ・ 体動の困難、筋力低下のある患者でも、少ない筋力でブザーを押すことができる。
 - ・ 細かな動作がしづらい人には便利。
 - ・ 高齢患者に使用しやすい。
 - ・ 麻痺患者に合わせられる。
 - ・ 症状に合っていないので。
 - ・ 押しボタンだと押すことが難しい場合もある。軽いと使いやすい。
 - ・ 手先がうまく動かない人には今のナースコールは困難。
 - ・ リウマチの方や手の不自由な方によい。
 - ・ 力を入れられない患者がいるから。
 - ・ 呼びたい時、呼び出せるように。
 - ・ 患者ができるだけ楽に知らせることができるようにすること。
3. ナースコール本体が握りやすい大きさ、形状である
- ・ 患者様にとって使いやすい。
 - ・ 患者にとって楽な操作ができる。
 - ・ 押しボタン2ヶ所に対応でき、1ヶ所は握りやすくなっている。
 - ・ 患者が使用しやすい。
 - ・ Ptにとって重要なコールであり、どのPtにも対応できる形状が必要。
 - ・ Ptが使用しやすいと思われるため。
 - ・ 患者が取り扱いやすいため。
 - ・ 高齢者が多いため。
 - ・ 患者が使用しやすい。

- ・ 誰にも簡単に押せることは必要。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 高齢者が多くなってきているため、力が弱くても使用できる必要がある。
- ・ 握りやすい大きさと軽いので使いやすい。
- ・ 簡単に押すことができる。
- ・ わずかな動きしかできなくなった患者様にはとても良い。
- ・ 高齢で機能障害がある患者でも使用しやすい。
- ・ 患者の自立支援。
- ・ 患者が使いやすいよう。
- ・ Pt が持ちやすい。
- ・ 手で持ちやすい。
- ・ 高齢者が多く、押しやすいかどうか重要。
- ・ Pt が使用し安い様に。
- ・ 力のないPt もいる。
- ・ 高齢、手指の機能が低下している方が、持ちやすい方が良い。
- ・ 体動や手の不自由な方も多い。
- ・ 患者が操作しやすい。
- ・ 患者が使用しやすいものが良い。
- ・ 患者様自身の扱いが楽で、いつでも押せる様に。
- ・ ナースコールを握りやすいこと。
- ・ 手が不自由な患者様でも押しやすい、握りやすい大きさが良い。
- ・ 高齢者が多く押すのでやっとの人も多いので、押しやすいことは大事。
- ・ 変形や拘縮のある患者でも押しやすいとよい。
- ・ Pt にとって使いやすい。
- ・ 患者の使いやすさ。
- ・ RA の Pt がいるため、指の変形で握りづらいため。
- ・ 長さの調節もできるので、また Pt が握るのに容易であること。
- ・ 出来る限り自分が意思表示出来る。必要時救助が求められるように。
- ・ 麻痺患者に合わせられる。
- ・ コールしやすい形状である。
- ・ pt 様呼び出される時に押しやすく握りやすい形状であることが最も大切。
- ・ 使い易いために。
- ・ 誰もが簡単に扱えないと大変だから。
- ・ 押しやすい事が前提条件である。
- ・ 押す力があまりいらぬこと。
- ・ にぎりやすい。
- ・ 高齢者、握力の弱い人でも押しやすいように。
- ・ 握りやすいものでない。
- ・ 身体的、精神的苦痛を伴っている事が多い。高齢者が多い。
- ・ 手の平全体で握れる大きさと握力が弱くても握りやすい。
- ・ 握りやすいことでナースコールしやすく、患者様の苦痛もへる。
- ・ 麻痺のある患者も楽に押せる。又、車椅子乗車していても押して届く様に。
- ・ 使用しやすいものが良い。
- ・ 常に使うもののため、握りやすい大きさ・形状であること。
- ・ 患者さんが使用しやすいのが一番だと思うため。
- ・ 誰にでも簡単に理解でき、使用できることが大事だと考える。
- ・ 機能的に効果的に使える。
- ・ 麻痺や筋力が弱っている時でも押せる。
- ・ どのような状態の患者でもコールが容易であること。
- ・ 手の中に合うことでPt の安心感にもなる。
- ・ トイレ時に握ってもらっている。
- ・ 患者が使いやすい。

4. 軽い

- ・ 高齢者が多くなってきているため、力が弱くても使用できる必要がある。
- ・ 握りやすい大きさと軽いので使いやすい。
- ・ 簡単に押すことができる。
- ・ わずかな動きしかできなくなった患者様にはとても良い。
- ・ 高齢で機能障害がある患者でも使用しやすい。
- ・ 軽く固定しやすい。
- ・ 軽い。
- ・ 簡便である。
- ・ 高齢者が多く押すのでやっとの人も多いので、押しやすいことは大事。
- ・ 長さの調節もできるので、また Pt が握るのに容易であること。
- ・ 軽量であり、体の上にも置ける。
- ・ ベッドサイドにおくものなので、軽くないと危ない。

- ・ 身体的、精神的苦痛を伴っている事が多い。高齢者が多い。
- ・ 誰にでも簡単に理解でき、使用できることが大事だと考える。
- ・ 使いやすい。
- ・ 重いと Pt に負担。
- ・ 押しボタンだと押すことが難しい場合もある。軽いと使いやすい。
- ・ 高齢者でも使いやすいように。
- ・ 握力の弱い方にとって良い。
- ・ 枕元や柵に付けておくので、軽いことは良い。
- ・ 小さくて軽い。

5. ケーブルの長さが調整できる

- ・ 長いナースコールつけられる。
- ・ 小児が遊びとして引っ張ってしまうこと。
- ・ Pt 個々にあった調整が難しい。
- ・ ベッドの位置におき、長さを変えたい。
- ・ ベッドの位置移動させた時、ナースコールが届かないことがある。
- ・ 長いと絡まり、短いとベッドサイドで届かないことあるため、調節できると良い。
- ・ ギャッチアップする時に邪魔で引き込まれることがある。
- ・ 麻痺側、患者の体型等により患者に適したナースコールの位置が確保できる為。
- ・ 長さが短くて困っている。
- ・ 使用する患者が便利に使用できる。
- ・ 事故防止のため。
- ・ ベッド柵に取り付ける際、十分な長さが必要であるため。
- ・ ベッドの置く位置等で調節出来ると良い。
- ・ ベッドの位置を変えると長くなったり短くなったりすると便利。
- ・ 日常生活動作に合わせて長さも調節出来ると良い。
- ・ ベッドの配置を変更したりするため。
- ・ ベッドの位置を変えることができる。
- ・ あまり長いと邪魔になるので調節できるとコードによる危険も回避できる。
- ・ 患者によって、使いやすい長さが異なるので、調整できると良い。
- ・ 長さ調整により、位置が変えられる。
- ・ 時にはベッドの位置を変えたいので、長さ必要。
- ・ ベッドの位置地を変えるため。
- ・ ポータブルトイレ使用時等、場所によってケーブルが短いことがある。
- ・ 使いやすい。
- ・ 今はその機能はないが、あると便利だと思う。
- ・ ケーブルが邪魔になったりする為、必要に応じて調節できる方が良い。
- ・ 利便性。
- ・ Pt に合わせられる。
- ・ ポータブルトイレ等する方はケーブルが長いことが要求される。
- ・ 自ら押せない患者、短くトレイをベッドサイドで行う時、長くできるなど、状況に合わせて調整したい。
- ・ 必要に応じてベッドサイドで使用しやすいようにしたいため。
- ・ ケーブルがベッド柵に絡んだりすることが多いので。
- ・ 長さを調節できないと動作に合わせて動かせない。
- ・ 自分に動けない患者が近くにおける様に調整できる事。
- ・ 患者の使いやすさ。
- ・ ケーブルでも事故防止のため。
- ・ 車椅子にのり、Bedside にいる場合に便利。
- ・ 長さを調節できなければ患者の体勢によって使えなくなってしまうから。
- ・ 安全性。
- ・ Pt が操作しやすいものがよい。
- ・ 対象に応じて高さの調整ができる。
- ・ 線がじゃま。危険。
- ・ 体位が変わっても、いつでも手の届く所にナースコールがあるようにしたいから。
- ・ ベッドサイドから離れることもあるから (トイレなど)。
- ・ 長すぎる事で危険な場合もあり、調整できるのがベスト。
- ・ トイレに移動する人、安静にする人、患者によってコールする場所が違う。
- ・ 患者の状態 (病状) で長さが調整でき良い。
- ・ ベッドに逆さまに休まれる方がいるので。
- ・ 活動が多くなった場合、長さが必要。
- ・ 安静度に応じて、長さが調節できる方が便利。
- ・ 現在使用しているものにはないが、あったら良いと思う。
- ・ 短い時があるから (異様に長い時もある) 調整できると嬉しい。
- ・ ベッドから離れた時も届くように。
- ・ Pt が使用しやすいと思われるため。
- ・ ケーブルが邪魔になり、引っかかり危ないと思うことがあるため。

- ・ ベッド脇にポータブルトイレ置いた時など、長さが長い方が便利。
- ・ 長さが随時変更できると良い。
- ・ 体の向きによって、届かないことがあるから。
- ・ 姿勢に合わせ、コールの位置を調節することがあるので。
- ・ 長さが足りないと、使いやすい位置に置けない。
- ・ 使いやすい位置に置くことができる。
- ・ 脱落や故障の予防。
- ・ 患者がベッド周囲に移動された時にコールできるように。
- ・ 体位により、変更できる。
- ・ ベッドサイドでも使用できるように。
- ・ ベッド上～ベッドサイドで押せる様に。
- ・ 寝たきりの人などは長い方がいいため。
- ・ 状態に応じて変更できる。
- ・ ベッド上でケーブルがとぐろを巻くのは良くない。
- ・ プラグの破損が多い。
- ・ ポータブルトイレ等の使用がある場合は長いもの…など状況に合わせ必要な長さが調整できる。
- ・ 破損防止。
- ・ 患者が使用しやすいものが良い。
- ・ Pt が楽だから。
- ・ ベッドサイドでもナースコールがおせるとよい。
- ・ Pt にとって使いやすい。
- ・ 対象の状況で調整は必要。
- ・ 麻痺患者に合わせられる。
- ・ ベッドの位置により調整できる。
- ・ ベットの高低などに合わせやすいから。
- ・ 患者様が車イスで食事、又はソファで過ごす時、延長できると良い。
- ・ ベッドの位置移動も対応できる。
- ・ 麻痺のある患者も楽に押せる。又、車椅子乗車していても押して届く様に。
- ・ 寝ていても座っていても押せるよう調整できる。
- ・ 患者が体に引っかかったり、からまったりしない様、使いやすいものが良い。
- ・ 患者さんが使用しやすいのが一番だと思うため。

6. ケーブルが邪魔にならない

- ・ ベッド移動が多いため。
- ・ 事故になる可能性があるので邪魔にならないこと。
- ・ 使用する患者が便利に使用できる。
- ・ ギャッチアップをするとナースコールが引っ張られ切れてしまうため。
- ・ 事故防止のため。
- ・ ベッドの移動の時、破損しないため。
- ・ 患者様の頭についたり、顔についたりが問題。
- ・ 事故防止
- ・ 事故防止のため。
- ・ 安全のため。
- ・ 患者の体に巻き付くなどしにくい。
- ・ 適度な高さで、事故につながらない。
- ・ 危険回避のため。
- ・ 安全面から。
- ・ 邪魔になるため。
- ・ ケーブルが邪魔だと使いづらい。
- ・ ケーブル線による危険を防ぐため。
- ・ 身体や他のライン類に絡まらないように。
- ・ コードがいろいろあると、患者にとって危ないから。
- ・ ケーブル長いとギャッチアップした時に切除してしまうことが良くある。
- ・ ギャッチアップする時に邪魔で引き込まれることがある。
- ・ 危険なので。
- ・ 邪魔だと押しにくい。
- ・ ベッド上下で時々ベッドの下へナースコールのケーブルが垂れ、ベッド下げる時に引っ張って壊れそうになる。
- ・ 移動が多いため。
- ・ 症状に合っていないので。
- ・ ベッド周囲の整理のためにもケーブルが邪魔にならない。
- ・ 身体の下になったり、首にまきついたり、事故になりやすい。
- ・ ベッドを動かした際、ケーブルが引っ張られ壊れる原因となる。
- ・ 電動ベッドに挟まった破損することが多い。
- ・ ベットにケーブルをまきつけておいてギャッジ up してこわれてしまうケースが多いので。
- ・ ケーブルが邪魔になり、引っかかり危ないと思うことがあるため。

7. コンセントから抜けないようにプラグがしっかり固定できる

- ・ 理想ですが…。
- ・ ある程度力で引っばったり、力を加えないかぎり、めったに外れたりしない。
- ・ ベッド移動が多いため。
- ・ 不穩の患者でぬけてしまう。
- ・ 固定性は良い。
- ・ プラグの破損が多い。
- ・ 引っ張られてゆるむことがあるので。
- ・ 不穩患者などの場合、引っ張ったりしてもよいように。
- ・ 抜けてしまうようでは意味がないから。
- ・ ベット頭部のボードにプラグがあるが、ギャッジアップする時に抜けてしまうことあり。
- ・ 確実に入ってないと操作できないから。
- ・ 根元がネジでしめられるので、きちんととめられるからいくらひっぱっても大丈夫。
- ・ プラグ固定がねじでしっかり固定できる。
- ・ 抜けにくくてよい。
- ・ 本体が抜けてしまうとおしても反応しない。
- ・ 安全なため。
- ・ 患者様が押したのに外れていたために機能しなかったという事故をなくすため。
- ・ 安全のため。
- ・ 簡単に抜けてしまうようなら意味がないから。
- ・ 引っ張って事故にならないように。
- ・ ナースコールを引っ張ってしまう Pt がいるため。
- ・ 安全面。
- ・ 抜けると機能をはたさない。
- ・ ひっぱられても抜けないのがほしい。
- ・ 電動ベッドなどにひっかかったりして、ひっぱってしまうことあり。
- ・ 緊急時に呼べない。
- ・ ひっぱったりして抜けてしまうことがないよう、固定はしっかりしていることが大切。
- ・ 安全性。
- ・ かなり意図的、機械的力が入らないかぎり抜けない。
- ・ 故障しないために、しっかりしたものが良いと思う。
- ・ 簡単に抜けると押したつもりで反応がない事になる。
- ・ プラグ固定で多少ひっぱっても抜けず、安全である。
- ・ ほとんど抜けたことがなく、トラブルが起こっていない。
- ・ 事故防止。

8. 呼び出しボタンが選択できコール内容が把握できる

- ・ コールだけで内容がわかると業務しやすい。
- ・ 訪室し用件を聞いてから、またナースステーションに戻ったりと二度手間を省ける。
- ・ 準備をしながら病室へ迎えたりできる。
- ・ 内容を言わなくても分かってもらえるように。
- ・ コール内容把握で緊急度が分かり対応しやすい。
- ・ 車いすトイレのみコール音が違うので、区別できる。
- ・ 分かりやすい。
- ・ 忙しい時には便利である。
- ・ 理由はわかれば準備ができる。
- ・ 症状に合っていないので。
- ・ トイレや点滴などは処置的に緊急を要するため。
- ・ 特にトイレ介助の時、大部屋だと言いくいと考える。
- ・ Ns が分かりやすく、仕事の効率化もよくなる。
- ・ “ずっと押し続ける方がいたりする。
- ・ ICU ではナースコール使用は少ないが、ナースコールの内容がわかれば優先順位をセレクトできる。
- ・ コールの内容が、すぐさま分かると便利だから。
- ・ コールの内容が把握できると早く対応ができる。
- ・ Pt が使用しやすいと思われるため。
- ・ 夜間など、又、多床室の場合、プライバシーも守れると思う。
- ・ 言葉が出なくても、又は、隣りの Pt に聞かれたくない、言いたくない時があるため。
- ・ 理想ですが…。
- ・ 緊急性が判断出来る。
- ・ ナースコールの優先順位を考慮することができる。
- ・ 対応優先度がわかる。
- ・ “ちょっと来て下さい”と内容を言われない場合があるので選択できると便利。
- ・ 安心につながる。
- ・ イシキのしっかりしている人に使える。
- ・ コール内容の把握は素晴らしいが、まずは対応。
- ・ いちいち患者様に聞かず判断できる。

- ・ 用件を一目で知ることによって時間の短縮になる。
 - ・ コールだけで、何の用事なのか分かったら便利。
 - ・ コール内容が把握できれば便利。
 - ・ すぐに対応しやすい。特に夜勤帯に便利。
 - ・ 分かりやすい、2度手間にならない。
9. 押して反応したことが患者自身に分かるように光る
- ・ 夜勤時等、訪室するまで押し続ける患者がいるため。ナースがとったことを知らせられる手段があれば良いかと思う。
 - ・ どの部屋のどのベッドからのコールかわかるものが欲しい。(自ら、コールしたと訴える事ができる人が少ないので。)
 - ・ 何度も鳴らす患者が多いので、ナースが焦らないためにも。
 - ・ 器材が壊れにくい。
 - ・ 反応が見えることで安心されるため。
 - ・ 夜もわかりやすい(電気を付けなくてもわかる)。
 - ・ 就寝後等、周囲の患者の迷惑にならないで応答できる。
 - ・ ナースに伝わったか患者自身に分かるため。
 - ・ 利便性・患者が理解しやすい。
 - ・ コール後すぐにナースが行けない時もあり、Pt がコールできているか分かった方が…。
 - ・ コールしたことが分かることで、Pt さんが安心できる。
 - ・ 患者自身が安心する。
 - ・ 気づかず、何度も押すことを予防できる。
 - ・ 何度も押す人もいるため。
 - ・ 押して反応したことがわからず、何度も押されることがあるため。
 - ・ 夜間返事をしないため、何度もナースが行くまで押される場合があるので。
 - ・ 患者が少しでも安心する。
 - ・ 夜間、ナースが訪室するまで、押し続ける患者がいるため。
 - ・ 続けて何度も押す患者さんが現在いるため。
 - ・ 患者の安心のため。
 - ・ 看護師が訪れるまでも不安感解消。
 - ・ 安心するから。
 - ・ 今使っているナースコールは光っているのが分りづらく、何度も何度も押す患者が多いから。
 - ・ 夜間大部屋ではナースコールに対して返事しないので、時々何度も押し続ける人がいるから。
 - ・ 患者さんにもわかれば安心につながるのではないかな。
 - ・ ナースコールが作動しているということの確認を患者が行なえると、不安の軽減になると思う。
 - ・ 夜に押したときにわかりやすい。
 - ・ ナースコールに反応していることが分からず、何度も押してくる Pt がいる。
 - ・ 安心につながる。
 - ・ 患者に分からないと何回も call を押すことになってしまう。
 - ・ かくにんできてよい。
 - ・ 患者自身もおしたことがわかると良い。
 - ・ Nr. が応答するまで患者が不安だから。
 - ・ 待っていただくことができるか、どうか判断できる。
 - ・ 何度も患者が押すことがあり、効率的に仕事ができないと思うことがあるため。
 - ・ 自分でやれることも大切。
 - ・ 現在は相手の反応が声でしか分からないが、別の方法でも分かる様にする。
 - ・ 光ることにより安心させる。
10. 清掃が簡便な
- ・ 感染予防対策。
 - ・ 繰り返し使う。
 - ・ ふきやすくなっている。
 - ・ 拭いて汚れがとれるのでよいと思う。
 - ・ 使用しやすい。
11. その他
- ・ ベッド柵に引っかけてギャッチアップして断線すること多い。
 - ・ 暗闇の中、コールがわからず離床してしまうケースがある。
 - ・ 現状が部屋ごとであり、大変困っている。
 - ・ どの部屋のどのベッドからのコールかわかるものが欲しい。(自ら、コールしたと訴える事ができる人が少ないので。)
 - ・ 他の部屋で処置中でもすぐ応答でき、Pt の安心につながる。

資料 7-4 ナースコールへの不満・改善要求意見・一覧表

□適切な設置場所が確保できない

- ・ ナースコール子機の固定がうまくできない。壁側に固定するようになっているが患者の病状により枕元で使用するため。
- ・ ベッド柵に固定できる、部品がついていると良い。
- ・ 現状では、よく使用される高齢の方はベッド柵にしばったりして固定しているので、固定したり、すぐ手元に届くような工夫が欲しい。
- ・ ナースコールの置き場がなくベッド柵に引っかけている。
- ・ ベッドに置くと、落ちたり、ある場所が分からなくなったりする。
- ・ ベッド柵に縛ると柵をおろした時に断線する事がある。
- ・ ベッド上安静の方は、ナースコールが手元にないと、どこにあるか分からなくなる。しかし、コード、ラインも多く、手元に持ち続けるのは苦痛となる。
- ・ Pt にとってのベストポジションに微調整できない。
- ・ コードの長さが調節できず、ベッドサイドでの位置調整ができない。
- ・ ナースコールが手に固定されると良い。
- ・ 使用中ベッドに簡単に固定できると良い。
- ・ 患者様が押しやすい位置に固定するため、紐で固定したりしている。何か位置を固定できるものがほしい（固定位置が悪いとコード引っ張られ、故障の原因となる）。
- ・ 首や頭を動かさせない人が押しやすいように。
- ・ 設置しにくい（ひもを柵に巻き付けなくてもいいように）
- ・ コードレス。
- ・ 柵やシーツにもとりつけられる様、コール部分に固定するところがあると良い。
- ・ ベッドサイドに落ちたりするので、動けない患者は柵に結んだりしないといけない。
- ・ 通常のものだと、固定する器具がないため（ベッド柵などに）、柵にくくりつけたりするしか方法がない（手元近くにナースコールをおいておきたい場合）。
- ・ 柵など患者さんが手が届きやすく見やすいところに設置できるような接続部品があったら良いと思います。
- ・ ナースコールそのものを床に落としてしまう Pt がいる。
- ・ コードをベッド柵にくくりつけている現状→シーツ交換やベッド移動時毎回はずす。→ナースコールかけが必要。
- ・ ナースコールのボタントイプを壁にひっかけておくが、床に落ちやすい。必要時（ope 後）手の届かないことがある。ナースコールをひっかけるプラスチックのフックがベッドの頭部にはまりにくい。フックが浅くて、ナースコールのスピーカータイプをかけるとボタントイプがかかりにくい。
- ・ ボタントイプのナースコールがひっかけられるようにしてほしい。
- ・ 床頭台にナースコールがつけられる。
- ・ コードレスで手もとにおけるものがよい。
- ・ 側臥位になった時、向きによってナースコールを移動しないとイケない。
- ・ 左右の付け替えが不便。
- ・ 手に持っていたら、手から放れたら、なかなか探せないの、手にはめるバンドでもあると良いです。
- ・ 天井からつり下がっているの、長さを調節するのが大変。
- ・ 手に持てるようベルトなどがついていると良い。
- ・ フックがついていたり、結べるタイプがあれば良い。
- ・ コードレスでストラップに付けたり、パジャマに固定したりできるもの。

□押せない状態の患者に対応できない

- ・ 手が不自由な人が、現在のナースコールだと使用できない。
- ・ 指に力のない人は押しにくい。
- ・ 押せない人（指が使えない）がある。
- ・ 通常の押しボタンとは別に、ナースコール本体を握るだけで呼び出せるボタンがついていること。
- ・ 上手く手がきかない人でも使いやすいナースコール。
- ・ 機能障害のある方が押しにくい。
- ・ ボタン部分がもう少し押しやすくして欲しい。
- ・ 四肢麻痺の患者に使えない。
- ・ 手の不自由な人が押せず困った。
- ・ 力のない Pt に持ちやすくない。
- ・ 手で握ることではできるが、ボタンを押すことまでは出来ない患者に使用できない。
- ・ 障害のある Pt が押しにくい
- ・ ボタン部分を大きく。しかし、間違っ押しにくいように。
- ・ 細かい指の動作が出来ない老人等、押しにくい。
- ・ 手指が十分動かない患者さんには扱えない。
- ・ 握るタイプ etc.がないため、使いこなせない Pt が多い。ボタンわかりにくい。
- ・ 高齢者の方にとってナースコールの使用方法が理解できない方もあり、もっと握りやすい、わかりやすいものが良いと思われま。
- ・ 手指の変形等で力が入らない場合の押しやすいナースコール。

- ・ 指の力がない患者も使用できるタッチセンサー "マヒのある人にも使いやすいものがよい。
- ・ 上肢のキノウ障害のある Pt でナースコールをおせない人用にひじなどで押せる大きいナースコールを使ってほしい。
- ・ 麻痺患者がボタンを押せなくて困った。
- ・ 押せない人のためにヘッドホン型など。
- ・ ボタンが押しずらそう。
- ・ 手が不自由な人、オペ後の人に使用がスムーズにできるナースコールがあればいいと思った（押しにくい）。
- ・ 押しボタンの部分小さいため、手先の不自由な方は、押しづらいことがある。
- ・ 声や物音などに反応する物があれば便利。

□コードの長さ

- ・ コードがからまりやすい。
- ・ コードが長く、危険。
- ・ コートが短く、患者様に届きにくいことがある（短いために引っ張りまた断線を繰り返す、コードがだんだん短くなっていく）。
- ・ ケーブルの長さが調整できること。
- ・ ナースコールの長さが短い。
- ・ コードの長さが一定であるため、患者に応じてもう少し変化させられると良いと思う。
- ・ コードが長く、邪魔になることがある。
- ・ もう少し長くして欲しい。
- ・ ベッドアップをした時に引っ張られて、破損することがある。
- ・ ナースコールのケーブルの長さを調節可能にしてほしい。
- ・ 今のナースコールは有線である便利さもあるが、不便さもある。紛失しない点はよいが、意識のある人は無線のものがあればと思うこともあった。
- ・ 長さ（コード）。
- ・ コードの長さ調整できると、長すぎても使いにくい、短いとギヤッチアップ時に届かない。
- ・ ナースコールのコードにより自傷行為を起し、危険な状態を招いたケースがある。患者の手にとどく長さは必要であるが、コードがあることで事故を起こす可能性がある。
- ・ コードの長さが調節できる。
- ・ コードが邪魔。
- ・ 長さ調節。
- ・ スピーカーとボタンの間のコードを長くしてほしい。
- ・ ケーブルがないこと。
- ・ ひも（コード）が短い。
- ・ 長さが短い。
- ・ ナースコールをおそうとして、点滴ルートをさわたり、抜去したケースもあり、ナースコールも形状を考え、リモコンみたいにコードがなくても鳴ればよいと思う。
- ・ コードが短い
- ・ コードが長すぎて精神科にとって危険な時がある（危険性のある方には使用しないが）。

□コードの断線が多い

- ・ ギヤッチアップの際、コードが引っ張られ、配線の断裂などがあつた。
- ・ ナースコールがベッド操作時にからまり、破損する。
- ・ 断線が多いので、断線しにくいものに改善でないかすぐに断線する。
- ・ 壊れやすい。故障しやすい。
- ・ コードの破損が多い。
- ・ ナースコールをセットしておく場所により（例えばベッド柵で Pt 様の手の届くところ）、ギヤッチアップ時うっかりして引っ張り断線したりする。
- ・ よく破損する。特に電動ベッドでギヤッチアップする時、柵に絡めたまま行い切れる。
- ・ 電源を取るための配線が、ベッドに引っかかり断線する。
- ・ コートが引っかかり、断線してしまうことがある。
- ・ 長さが伸縮自在だと、ギヤッチアップ時に切れないかな。
- ・ 断線しやすかったり、押すボタンが戻りづらかったり故障が多い。
- ・ こわれやすい。
- ・ ギヤッチ up 時にひっぱられてちぎれてこわれること多し（Pt の電源操作時）
- ・ コードが引っ張られて故障することが多い。
- ・ ギヤッチアップのたびにコードが引っかかる。短すぎる。
- ・ コードがベッドにはさまれて、コードが切れてしまうことがある。
- ・ 接続部分等が破損し易い。
- ・ よくこわれる。
- ・ 壊れやすい。
- ・ 壊れにくいもの。
- ・ 手元に置いておきたい Pt が多く、ベッド柵にくくりつけてしまう事が多い→ベッドアップする時ちぎれたりすることがある。

□会話に不都合がある

- ・ 患者の用件が聞き取りにくい。